

2 . 事業実施報告

本事業では、事業の実行計画の立案、調整・推進等を行う研究交流促進会議、また研究の円滑かつ着実な推進等を図る共同研究推進委員会を年2回ずつ開催し、事業の目的達成に努めた。

研究の推進においては、県工業技術センター及びその隣接地に整備された地域振興整備公団の賃貸研究施設（クリエイション・コア福岡）内にコア研究室を設置するとともに、飯塚地域（飯塚研究開発センター内）、北九州地域（県工業技術センター機械電子研究所内）にサブ・コア研究室を設置し、各地域の大学、企業が効率的に研究を推進できるような環境整備を行った。

また、本地域の特徴として、大学等の研究シーズをもとに研究テーマ及び研究グループを組み上げているため、大学の設備、技術ポテンシャルを十分活用できるよう、大学等に対しても研究員を派遣し研究を実施した。

このように当地域では、ネットワーク型の体制により研究を推進したため、中核機関や各研究者間の研究打合せ、研究データの相互活用等が円滑に行えるよう、コンピュータネットワークシステムの構築・運営を行った。

さらに、本事業から創出された研究成果については、地域に広く普及するため、毎年度、福岡県域を対象とした研究成果発表会を開催するとともに、科学技術振興事業団や（財）全日本地域研究交流協会等の事業を活用し、国際新技術フェアやシンポジウム等におけるポスター発表、成果品の展示を積極的に行い、全国的な情報発信に努めた。また、本地域のフォトンクス分野における学術的な地位向上を目指し、特許出願（出願件数65件）による権利確保に十分配慮しつつ、100件を上回る学会発表を行った。その他、中核機関のホームページによる情報発信も行った。

研究会活動としては、主にデバイス実装分野で最新技術に関する講演会、意見交換を実施し、情報の収集・発信を行った。また、本研究会はオープン参加形式をとったため、平成10年に20数名で立ち上がった研究会が、平成14年には400名を超える構成員となるなど大きな広がりを見せている。

研究事業については、

- ・ 新しい記録、表示に関する技術確立
- ・ 新たなフォトンクスデバイス材料の開発
- ・ 薄膜形成技術、精密計測・評価技術等の新たな共通基盤技術の確立

の3つの目標を掲げ、リーダーを中心に5～6グループにより研究を実施した。

研究事業の詳細について後述するが、国の中間評価を受け、フェーズ において研究統括が中心となり、研究の重点化及び達成すべき研究目標を明確にしたことで、各グループとも概ねフェーズ の目標を達成することができ、フェーズ に移行することが可能となった。

今後（フェーズ ）も、福岡県の予算的・人的支援により、引き続き、研究の中核的施設としてコア研究室を確保・運営するとともに、本事業で構築されたネットワーク型地域COEの基盤をもとに、フォトニクス分野に関するネットワーク会議、研究会活動を推進し、更なる地域COEの構築・発展を図っていく。

また、地域COEを担う研究事業においても、本事業の研究成果をもとに、県予算による新たな実用化・製品化研究（2テーマ）、基盤的研究（2テーマ）を実施しつつ、国等の制度を活用したプロジェクト展開し、新技術・新製品の開発を目指していく。